

## 令和7年度 1学期終業式



校歌斉唱

### 校長式辞

この夏休み期間中に終戦の日、8月15日を迎えます。日本が終戦を迎えてから、今年で80年となります。そんな節目となる時だからこそ、みなさん一人ひとりに考えてほしいことがあります。それは、「これから先も平和を守り続けていくには、どうすればいいのか？」ということです。

世界各地では、今も軍事侵攻や紛争をはじめとする様々な争いによって、かけがえのない命が失われています。かつて日本でも、戦争により数多くの尊い命が失われてきました。そうした悲惨で大きすぎる悲しみの「記憶」こそが、これまでの平和への祈りにつながってきたと思います。しかし、戦後80年が経過する中で、その「記憶」が薄れつつあります。

3年の皆さんは昨年の修学旅行で沖縄にいきました。そこで当時の防空壕に入り、語り部の話を聞いたり、糸満市の平和記念公園を訪問しました。その平和記念公園で毎年6月23日の「慰霊の日」に沖縄全戦没者追悼式が行われ、その中で「平和の詩」が朗読されます。今年は小学校6年生の「おばあちゃんの歌」が選ばれました。この詩は、作者の小学生が85歳の祖母から、沖縄戦の壮絶な体験と戦後も長く続いた苦しみについて聞いた話をもとに書いたもので、戦争の記憶を伝え続けていくという強い決意がにつづられています。その詩の最後はこうあります。

おばあちゃんに生きていてくれて本当にありがとうと伝えと、両手でぼくのほっぺをさわって「生き延びたくとう ぬちぬ ちるがたん」（生き延びたから 命がつながったんだね）とおばあちゃんが言った。八十年前の戦争で、おばあちゃんは心と体に大きな傷を負った、その傷は何十年経っても消えない。人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないように、おばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていく。おばあちゃんが繋いでくれた命を大切に一生懸命に生きていく。この詩にあるように、これからも限らない平和を紡いでいくには、薄れつつある戦争の「記憶」を語り継ぎ、受け継いでいくことが大切です。終戦から80年を迎える節目の年に、皆さんもいま改めて平和のすばらしさについて考えてほしいと思います。

そして命の大切さについては、3年生2年生の皆さんには、以前話しをしましたが、昔生徒を事故で亡くした中学校に建てられた石碑に刻まれた言葉。

「死ぬな けがすな 病気すな」

最近皆さんと同じ高校生が命を落とす報道をよく耳にします。皆さんの周りには色んな危険が潜んでいます。交通事故や水辺での事故など。でも気をつけていれば防げることもたくさんあります。くれぐれも大切な命を守ることも絶対に忘れないでください。

最後にみなさんが夏休みを思いっきり楽しみ、2学期始業式に元気に登校してくれることを願って1学期終業式の挨拶とします。